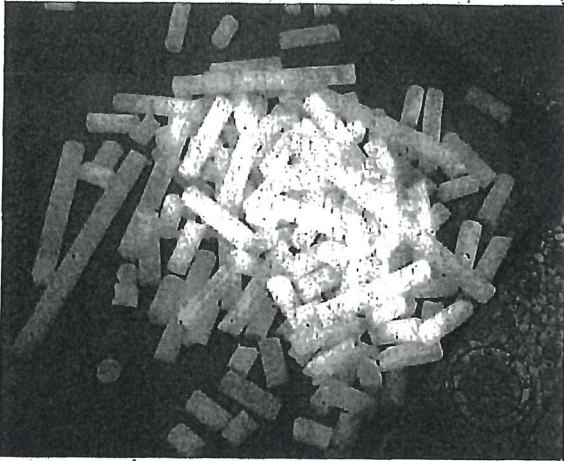


# ドライアイス製造装置の 販売を手がけるドライアイスサービス(千葉市)は、 ドライアイスをペレット状に加工する装置を開発した。ペレット状のドライアイスや、形状を整える際に用いる端材を活用 アイスは洗浄用のほか、米フアイザー製の新型コロナウエアスワクチンの輸送に必要で需要が高まっている。 ドライアイスの加工機は海外勢が強いが、新型コロナ向けの需要増で輸入が難しくなっている。国産加工機のニーズが高いとみて市場参入する。 ドライアイスサービスは、ドライアイスの加工機の輸入販売を手がけ、売上高は年約3億円だ。ペレット状のドライアイスを作る他社の技術特許が20年に切れたことから、自社で加工機を開発した。一般的な四角形

のドライアイスや、形状を整える際に用いる端材を活用アイスは洗浄用のほか、米フアイザー製の新型コロナウエアスワクチンの輸送に必要で需要が高まっている。仕組みだ。

生産能力は1時間に100〜200kgで、大きさが3〜19mmの5種類のペレットを作ることができる。新型コロナウイルス向けのワクチン向けにも対応が可能だという。油圧機械メーカーなどの国内3社が装置の製造を担い、値段は1台700万円弱を想定する。今夏以降の市場投入を目指し、年間10台ほどの販売を見込んでいる。ドライアイスは宅配の冷



ドライアイスサービスはドライアイスをペレット状に加工する装置を国産化する

凍輸送用などに用いられてきた。ペレット状のドライアイスは、四角形の形状にスライスを従来、工場の金型やアイスされたものが一般的。食品の製造機械を洗浄する

ものしんべん

## 国産装置、ワクチン用も

際などに用いられてきた。ペレット状のドライアイス対象を傷めず、衛生面にも必要が増加し、製造装置優れるため販売は伸びているが、需要は全体の1割程度にとどまっていた。長時間輸送するとペレット同士がくっつき品質が劣化することも課題だった。

新たな商機となるのが新型コロナウイルスのワクチン輸送向けの需要だ。米フアイザー製のワクチンは品質保持のため輸送時にドライアイスで冷凍状態を保つことが推奨され、専用の容器内にペレット状のドライアイスを敷き詰める必要がある。四角形のドライアイスが主流のため、導入もしやすい。日本では、ペレット状の製品は確保しにくく、少なくとも数千トンの需要が新たに生まれるもようだ。ペレット状のドライアイス加工機械では米国の大手メーカーが強い。ただ米国のでもワクチン接種の拡大で

(名古屋支社 福本裕貴)